

持続可能な食料生産・消費のための官民円卓会議
第5回 温室効果ガスの見える化作業部会(概要)

日時：2024 年 3 月 26 日（火）13:00～15:00

場所：農林水産省（対面・Web ハイブリッド開催）

出席者：別紙参照

概要：

農林水産省とその委託事業者及び環境省から、令和 5 年度の温室効果ガス見える化にかかる取組内容の報告を行い議論した。

「加工食品にかかる環境コミュニケーションを検討するタスクフォース」の事務局から、タスクフォースでの検討状況を報告し議論した。今後の進め方として、業界全体への浸透を視野に、業界団体の巻き込みを行いつつ、表示ルールや算定・表示等の社会実装に向けた推進体制について議論していくことが提案された。

議題 2 食品分野の輸入原材料の GHG 排出量算定における排出原単位データベース活用のためのガイダンスについて

- 紹介されているデータベースの一部で有料と記載があるが、金額の記載をしてほしい。また各データベースの更新頻度を記載してほしい。
- 土地利用変化の影響への言及があるが、家畜からのメタンの排出等、FLAG 排出で勘案されている土地管理なども勘案してほしい。
- 議題 1 では生物多様性の観点が含まれていたが、この輸入原材料の排出原単位についても、将来的に生物多様性の項目を拡充するのか。輸入品と国産品で生物多様性の観点を検討するかどうか分けるのか。
（←このガイダンスの検討は、食品メーカーの多くが、原材料を海外からの輸入品に頼っているが、輸入原材料の場合、GHG 排出量の算定において、各原単位をどう判断して選択すればよいかわからないという課題を受けて取り組んだもの。脱炭素と生物多様性の要素をあわせた議論はできていない。）

議題 3 加工食品共通の CFP 算定ルール案及び実証について

- 実証からの考察として、全体の加工食品の製造工程の中で、流通・販売・調理・片付け部分はデータ収集が難しい一方一定の排出インパクトがあることから、共通シナリオの策定を検討することが示唆されている。共通シナリオを作成するのは良いが、企業努力でこれらのプロセスの排出量の実データの把握や削減が可能だと考えている。企業の努力が見える項目については、必ずしも全て共通シナリオに沿って算定をしなくて

もよいのではないか。

議題4 環境省における CFP の取組

- モデル事業において、直感的には想像できなかったが、想定以上に C F P への寄与が大きかったものはあるか。
(←一例として、チョコレートのカカオ豆について、輸送に係る排出のインパクトが大きいと想定していたが、実際には原材料の生産段階が、CFP に占める寄与が大きかった。農水省は「見える化」で分かりやすい表示を進めているが、今後はそのような脱炭素にかかる関連情報が、商品選択につながる流れが進むのではないか。どういう表示のやり方で消費者が商品選択をしていくかというナッジの考え方含めて、来年度は検討を進めていく。)
- 算定ルール作成に加え、どのように広めるのが重要。国民運動的なものにしようというような、環境省が旗振りして算定を進めていく働きかけはあるか。
(←環境省として様々な業界に働きかけをしている。具体的には、ファッション分野や日用品等、消費者との関わりが深い業界で取組が進みつつある。協力して、他の業界も含めて巻き込みを進めていきたい。)

議題5 加工食品にかかる環境コミュニケーションを検討するタスクフォースからの報告 (表示と推進体制についての検討状況)

- 農水省ではアウトリーチを一部業界団体に実施したが、消費者の理解の促進の必要性や、中小企業を含めた巻き込みをしてほしいという指摘を受けており、今後の普及には各業界団体の巻き込みが必要と考える。
- CFP 表示の提案として、カテゴリ全体で比較することは、食品カテゴリーの性質として環境負荷が大きいものが不利になる可能性があるため、表示が与える影響に十分配慮する必要があると考える。例外措置の設置など、引き続き議論をしたい。
- 表示を消費者の行動変容に繋げることはハードルが高い。消費財企業からは環境負荷低減の取組が早すぎても遅すぎてもリスクがあるという意見を聞いている。同時に、スピード感をもって進める必要もあり、仮説を立てて試行し、その結果を関係者に共有していく小さな成果を積み重ねること重要ではないか。
- タスクフォースの今後の進め方について、業界を巻き込んでいくという方向に異論はないということで本作業部会で合意したものとしたい。

以上

「持続可能な食料生産・消費のための官民円卓会議」

温室効果ガスの見える化作業部会

第5回 出席者表

○味の素株式会社

たかとり ゆきこ
高取 幸子 サステナビリティ推進部部長（ウェブ）

○イオン株式会社

いとう あきひこ
伊藤 章彦 商品戦略部（対面）

○株式会社伊藤園

いとう あきお
伊藤 章雄 農業技術部部長（ウェブ）

○伊藤忠商事株式会社

つかだ けんた
塚田 健人 リテール開発部 リテール開発第二課（ウェブ）

○カルビー株式会

たかき せいじ
高木 星治 サステナビリティ推進部 部長（ウェブ）

○日清食品ホールディングス株式会社

かわしま たけし
河島 武志 環境推進部 課長（対面）

○日本マクドナルド株式会社

あおき たくや
青木 卓也 コミュニケーション&CR本部 渉外部（対面）

○日本生活協同組合連合会

まつしま がく
松島 学 ブランド戦略本部 サステナビリティ戦略室 室長（ウェブ）

○日本農業法人協会

すずき たかひろ
鈴木 貴博 （ウェブ）

○日本ハム株式会社

なるみ よういち
鳴海 洋一 サステナビリティ部 プロモーター（対面）

○農林中央金庫

もり じゅんじ
森 順次 営業企画部 部長（対面）

いとう ゆみこ
伊藤 由美子 営業企画部 サステナブルビジネスグループ（対面）

○ハウス食品グループ本社株式会社

みなみ としや
南 俊哉 コーポレートコミュニケーション本部 C S R 部 部長（ウェブ）

○マルハニチロ株式会社

さと う ゆうすけ
佐藤 雄介 経営企画部サステナビリティ推進グループ グループ長（対面）

○明治ホールディングス株式会社

しみず やすお
清水 康男 サステナビリティ推進部 環境グループ長（対面）

○Climate Youth JAPAN

わだ ゆき
和田 優希 プロジェクトリーダー/広報統括（ウェブ）

関係省庁

○農林水産省（対面）

くぼ まいこ
久保 牧衣子 みどりの食料システム戦略グループ グループ長

おだ まさゆき
小田 雅幸 みどりの食料システム戦略グループ 地球環境対策室
課長補佐

きむら たかゆき
木村 崇之 新事業・食品産業部企画グループ 企画グループ長

かたやま けんたろう
片山 健太郎 新事業・食品産業部企画グループ 新事業・食品産業専門官

○環境省

すぎい たけお
杉井 威夫 地球環境局地球温暖化対策課脱炭素ビジネス推進室 室長（対面）

説明者

○議題（２）

すなが ゆういち
須永 優一 デロイトトーマツコンサルティング合同会社（対面）

かみや ゆうた
神谷 優大 サステナブル経営推進機構（対面）

○議題（３）

いはら あやの
伊原 彩乃 ボストンコンサルティンググループ合同会社（対面）

のぎき たくひろ
野崎 拓洋 ボストンコンサルティンググループ合同会社（対面）

○議題（５）

あまぬま ひろみつ
天沼 弘光

株式会社明治（ウェブ）

さ の のりひこ
佐野 徳彦

ボストンコンサルティンググループ合同会社（対面）

いはら あやの
伊原 彩乃

ボストンコンサルティンググループ合同会社（対面）

※敬称略